敷地は、間口 11.3m及び 3.9m、奥行き約 47mの南北に細長い形状である。南北への通抜け可能な動線を設けると共に中央付近にシェアルームを配し、これを境として道路面を平入りとした 2 棟に計 4 世帯が暮らす配置計画を考えた。

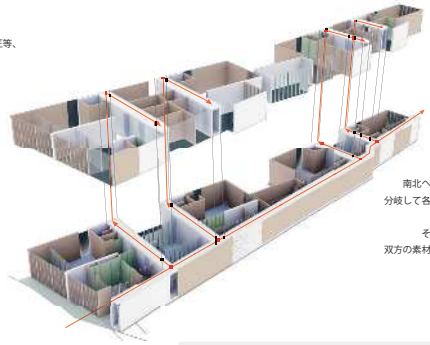
町屋の中の小さな町屋

津島における魅力ある伝統的な街並みの背景には、周辺環境、湾曲した街路形態、地割、建物の骨組や意匠等、
有形無形を問わず知識の集積と一貫した地域の解法があり、
この解法が大小のスケールにおいて面的に展開され「重層的な建築群」へと昇華されているように感じた。
それは地域に内在する普遍性とも言えるだろう。

計画は、この「重層的な建築群」を元とし、街路から小路を引込み、
町屋内に小さな町屋を反復する集合住宅の形式とした。
設計主旨は、「細くて明確なアクセス経路、ＲＣ造と木造による混構造、普遍性と可変性の確保、
空間的奥行きによるコミュニティとプライバシーの両立」などから成る。

これらの設計主旨には、相反する概念も多い。
しかし、多様な人が集まって住むことを前提とすれば実現できる。
多様な要求に対しておおらかであれば、住宅でありながら、人々が実際に足を運び使う場として、
生活の一瞬、一時、一部となり日常風景に寄与できると考えた。

あるいは、形態的な景観保存や修復による継続性の担保よりも、
重層性といった背景を再発見し遺産として共有することで、
津島の伝統文化を継承する持続可能性への一役を担えれば良いと考えた。



空間構成

南北へ貫入するＲＣの「パス」を設け
分岐して各世帯の奥側へ導く土間のような
立体的な動線としている
その他の諸室の殆どは木造であり
双方の素材特性を活かした空間構成とした

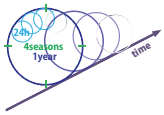
外観

内部の空間構成が
そのままファサードとして表れるようにした。
また、経年による変化を積極的に取入れ、
各素材を出来る限り素地で扱うよう意図した。

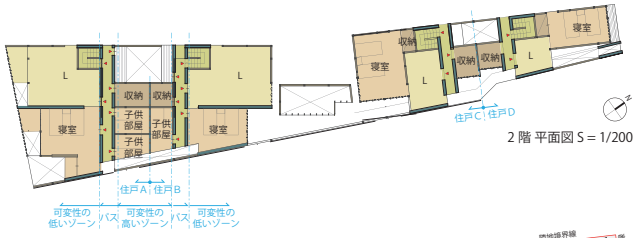
コンセプトマトリクス

計画上のコンセプトは、9つの視点から成る
これらは意図・目的と 1 対 1 対応ではなく機能補完しあう

昼夜、四季のような経年の中で
地域の人々の生活と共に建物が使われ
文化の一部へとスパイラルアップするよう
重層性のある設計主旨とした



9つの設計主旨 ＼ 意図・目的	A. 歴史性	B. 景観形成	C. 室環境	D. 多様性	E. プライバシー	F. コミュニティ	G. 可変性	H. 長寿命	I. 環境性能	J. 防犯・安全性	K. 防災性
1. 結節点のＴ字路	●	●									
2. 小さな町並み	○	●		○		○					
3. 4世帯の集住と共有空間		○		●		●				○	
4. 経年変化を楽しむ	○	○		○				●	○		
5. パスと奥行き			○		●	●	○			○	○
6. 段階的なシェルター			○		○	○	○			●	●
7. 時間と環境のデザイン	○		●						●		
8. 自由な使いみち				○		●	○				
9. 柔と剛の積層					○			○			●

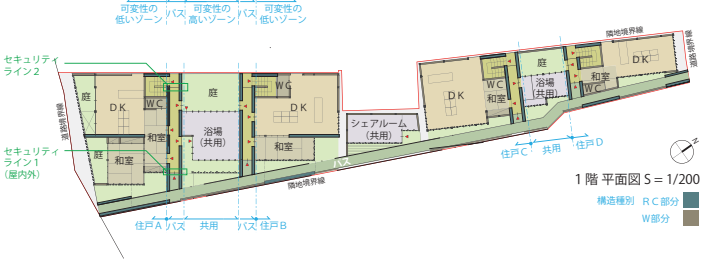


2 階 平面図 S＝1/200

平面計画（２Ｆ）

リビング、個室群と収納から成る。リビングは個々の世帯のみが使う部屋として考え、集合住宅でありながらも他者の介在なく、気兼ねない団らんができるように意図した。

パスに挟まれた部分は、大切なお子様や重要な物品の防犯性、安全性を高めるよう計画した。一方で、2 住戸の家族構成や機能的要求の変化に対応できるように、平面の区分は可動間仕切りや雑壁で簡便なしつらえとした。



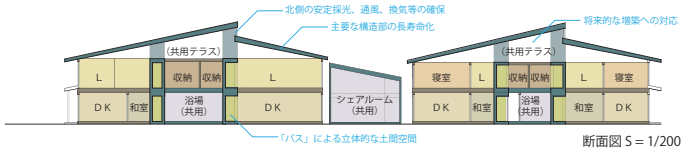
1 階 平面図 S＝1/200

構造種別　ＲＣ部分
　　Ｗ部分

平面計画（１Ｆ）

南北に通抜け可能なパスは、Ｔ字状になってに西方向へ延び各住戸へのアクセスとなる。この交点には、4 住戸全てが前庭、和室を備え、かつ隣接してＤＫがある。

お茶や人を広く招入れる文化を模範としたこの平面構成に加え、これらが各住戸に連続して配置しつつ共有部を点在させ、集合住宅としてのメリットを享受出来るような計画とした。



断面図 S＝1/200

断面計画

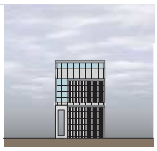
平入りで 1 階よりも 2 階の軒が低い意匠としている。2 棟に分離し、壁面積を減らしつつ、ＲＣによる屋根面のズレを活かしてハイサイドライトを設けた。

1 階と 2 階との機能分離によりメリハリをつけ、各所室の室環境や特性が多様となるように意図した。

東側 立面図 S＝1/200

長手方向のファサードは、隣地境界であるため 1,2 階共に開口部を殆ど設けず、パスや屋根面等のＲＣと木材による構成をそのまま表す意匠とした。
大きな壁面が建物の囲いとして内部に落ち着きをもたらし、活気ある多様な営みを誘発することを意図した。

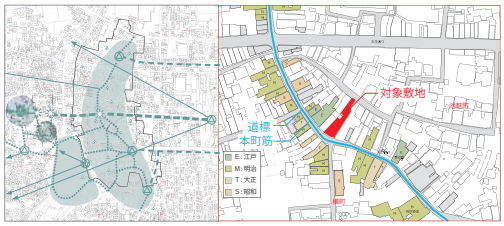
南側 立面図 S＝1/200



北側 立面図 S＝1/200

建物のファサードは、本町筋の歴史的意匠を継承し、通りに面する南北側を共に平入りとした。その一部にガラス面を設けて敷地内部の様子が垣間見えるようにし、
端部には「パス」へのシンプルな入口を配する構えとした。

1. 敷地：歴史の継承と新時代の萌芽へ向けた「結節点のＴ字路」



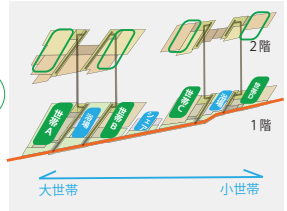
津島市の歴史や文化を色濃く残す伝統的な街並みの中でも、本町筋に面するＴ字路のつきあたりにある細長い場を敷地に選定した。当該敷地は、道標に近接しており、目に留まりやすい地域景観の機能上の要所である。また、津島駅側と天王洲公園との結節点としても機能し得る場であり、モデルプランの立地にふさわしいと考えた。

2. 敷地内に軒を連ねる もう一つの「小さな町並み」

南北のパスからみえる小さな町並み

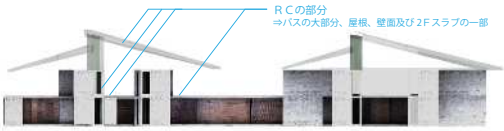
細長い敷地には、南北へ延びる路地のような「パス」を設けている。「パス」は、地域住民や光、熱、風、音といた環境の通りみちとし、敷地内の 4 住戸へのアプローチから各住戸の生活がこもれびのように垣間見える。敷地内部に、もう一つの小さな町並みを創出する事を意図した。

3. 人々の多様性を活かす「４世帯の集住と共有空間」



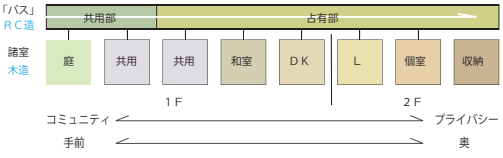
家屋は、4 世帯の集合住宅とした。南北に想定世帯の異なる家屋を並列に配置し、ある特定の類似する世帯のみが軒を連ねる事を避けて大小のボリュームや多様な室構成を規定している。
また、集合住宅の利点を生かし、二世帯が使う共有部、四世帯及び周辺住民等が使う共有部を設け、「高齢者と赤ん坊」のように多様な人々がこの場のパスや共有部で接点を持ち、豊かな地域コミュニティにも寄与できるように配慮した。

4. ＲＣ・木造の混構造による不変／可変性で「経年変化を楽しむ」



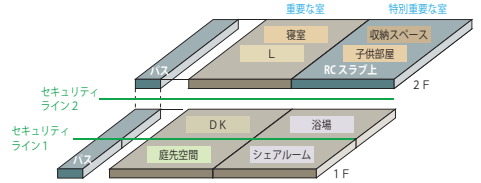
ＲＣ造と木造の混構造とした。建物の骨格となるような「パス」等の壁、重要な床面等はＲＣ造とし、家屋の屋根は傘のように中央部でＲＣに支えられている。時代、時間等による住民の機能的な要求にも柔軟に対応できるよう、その他の部分は各家屋内や可変性を確保するため木造にした。
また、周囲の環境との関係性から、室内外はコンクリートと木材の材料特性を活かした表しの意匠とし、経年変化を劣化と捉えず、時間の経過と共に愛着がわき楽しめるような構えを意識した。

5.「パスと奥行き」による明瞭な機能分離と諸室へのアクセス



「パス」からは、各住戸の各機能へ直接アクセスできるようにした。「パス」は誰でも通行可能な経路である共用部分と、各住戸の住人のみが通行可能な占有部分からなる。共用部は小路と庭であり、占有部は土足を想定した土間空間である。
「パス」からアクセスする諸室については、手前にはコミュニティや接客に使われる室を配し、奥へ進むほどプライバシーが求められる室となるように配した。

6. さりげなく防犯、安全性を確保する「段階的なシェルター」

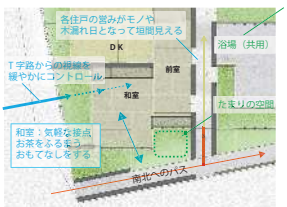


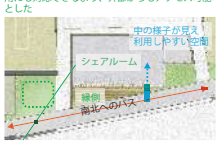
防犯、安全面では堤防のように担保するのではなく、快適に日常生活を営む中で自然と人や財産を守ることが可能なように、材料やプランニング上の工夫により段階的な防護を意図した。また、共有空間を複数有する計画上、各住戸のセキュリティラインについては段階を踏むように考えた。パスに直接面する 1 階の出入口部分に加え、2 階へ通じる階段の前でも縁を切り、居住者の使い方や来訪者に応じて 1 階を開放的に使えるように配慮した。

7. 陰影のあるファサードによる「時間と環境のデザイン」

南北のファサード面は、庇と木格子による伝統的な意匠を継承しつつ、加えてその背後にもう一重の表皮を構えている。その間は平庭、デッキと共に吹抜けが設けられ、根裏を通りハイサイドライト部分へと自然に風、熱、音、光が通り抜けるように配慮した。
また、これらの形態による彫りの深さが陰影をつくり、特徴的な外観、安定的な室内環境にも寄与できると考えた。

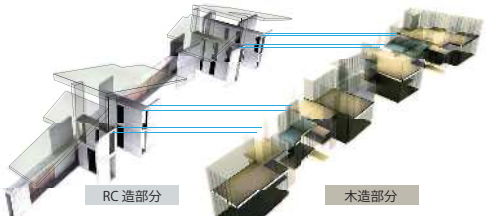
8. 浴場やシェアルームと「自由な使いみち」による地域への寄与





南北に通り抜ける地域の動線として機能しつつ、ただの通過動線とならぬよう、散歩道のように小さなたまりを設けている。また、中央に位置する共用のシェアルームは特定の機能に特化せず、行事、季節、時勢に応じてフレキシブルに対応できるよう意図した。コープ住宅のように住民の皆で自ら使い道を設定し、この場に愛着を持てるようになれば良いと考えた。

9. 可変性と防災性を両立させる「柔と剛の積層」



それぞれの長所を生かしたＲＣ造と木造の混構造とした。建物の骨格となるような部分の壁、床面等はＲＣ造とし、時代、時間による住民の要求に対応できるよう、その他の部分は各家屋内や可変性の有するよう木造にした。
また、特に住戸間の部分（１Ｆ：浴場、２Ｆ：子供部屋及び収納）に可変的な要素を集約して配置している。
地震、浸水や延焼などの災害に配慮し、「剛性」と「柔軟性」双方からの配慮を試みた。